

様式第2号

視察研修先	岐阜県高山市	氏名	阿部清
視察研修項目	観光振興について		
<p>所感・所見</p> <p>高山市は、先人たちの努力により脈々と受け継がれてきた飛騨高山の歴史や文化、自然を市民一人ひとりが享受するとともに、裾野が広く地域の人材、資源、産業を有効に活用できる観光の特徴を生かした地域づくりを発展させることで、国内外から選ばれ続ける、住んでよし、訪れてよしの国際観光都市「飛騨高山」の実現を目指している。</p> <p>7か所の観光地からの高速バスによる運行や海外におけるプロモーションによる観光客の受け入れ体制の整備等によるインバウンドの呼び込みを他市に先駆ける。東京―高山5時間45分・大阪―高山5時間40分・信州松本―高山2時間30分・富山―高山2時間20分・金沢―高山2時間15分・名古屋―高山2時間45分など空港や観光地との高速バス運行による観光客の移動は大きい集客を感じた。</p> <p>多言語によるパンフレットの一新等に取り組んでいる。外国人観光客が滞在しやすい環境づくり、公衆無線LANサービスの提供、案内表示の多言語化、通訳ガイドの育成、確保。文化的、宗教等背景を持つ観光客に配慮したサービスの充実など受け入れ体制の強化をしている。</p> <p>宿泊施設は、令和7年1月現在で、ホテル、旅館約235施設、簡易宿泊施設（空き家等を利用した宿泊施設）225施設・民泊36施設・その他施設4施設（国民宿舎等）の500施設になる。地元の宿泊施設が減少しているが、多くの外国人の宿泊があり、多くの外国人に市民の中には不安視するものも多い。</p> <p>ワンストップ医療相談窓口を開設、外国人医療を必要とする際に、医療機関、観光施設、宿泊施設等から医療に関する問い合わせが出来る相談窓口を設置し、外国人にとっての安心・安全性などの環境整備をしている。万が一の時の寄り添いは大きな支えとなると感じた。</p> <p>宿泊税の導入、令和6年12月議会において宿泊税の導入条例案可決（令和7年10月1日より導入）市のまちづくり全般に波及させ地域づくりに要する費用に充てることとしている。税率は、1万円未満100円・1万円以上3万円未満200円・3万円以上300円とし、12歳未満無料、学校行事、修学旅行児童、引率者介助者無料とし、宿泊税の用途は5つの事業（1, 観光振興事業 2, 観光事業 3, 文化振興事業4, 危機管理事業 5, 組織運営事業）の支援や賦課徴収に要する市の経費や特別徴収義務者の支援に活用している。</p> <p>飛騨高山の観光は、市民あつての観光地として、高山市が策定した「観光を活用した持続可能な地域づくり方針」に位置づける役割分担に基づき、DMOである一般社</p>			

団法人飛騨・高山観光コンベンション協会が策定「かけがえのないこの日常が、私たちの宝物」をキャッチフレーズに観光を起点とした地域づくり戦略として策定された。

世界から選ばれる高付加価値な観光地に向けた取り組み

北アルプスの自然の恵みと、その恩恵を受けた松本と高山に根付くこの地域を、一つの観光圏として捉えたときに、多彩で上質な体験と滞在が出来る魅力的な観光地経営によって、この地域社会の持続性を高め、50年、100年先の未来のため高付加価値な観光地域づくりとして、環境庁が、地方における高付加価値なインバウンド観光地域づくり事業として、松本と高山高付加価値な観光地づくり推進協議会を設立、協議会は観光産業の高付加価値を通じ、地域全体の経済波及効果、住民の暮らしの向上を目指している。高山の北アルプスの山並みと古い町並み、松本城や白川郷との連携は素晴らしい。

飛騨高山の視察で驚いたのは、外国人観光客の多さ、街中は現代の生活風景と昔の街並みを残した懐かしい街づくりである。行き交うのは外国人だらけで、ラーメン屋、餃子屋等は外国人が並んで待っている状況である。寒河江のラーメンと比べたかった。

また、白菜漬け等の昔からあるものにひと手間かけて、新しい料理としてお客様に提供しており、それをホテルや飲食店で提供していた。

視察の中で、観光は長年かけて培われてきた財産であることを思い知らされた。先人が守り継いできた歴史、文化、自然、建築物、昔からの食文化等をどう認識し、どう残し、どう行動していくかが大きいと感じた。

本市においても、今ある歴史、文化、自然、建築物、食を守り観光につなげればと感じてきた。

様式第 2 号

視察研修先	岐阜県下呂市	氏名	阿部清
視察研修項目	下呂市地域公共交通計画について		
<p>感想・所見</p> <p>下呂市は、北に古い町並みで知られる「飛騨高山」の高山市、「世界遺産の白川郷」の白川村、南に「長良川の鶉飼い」で有名な県庁所在地の岐阜市があり、下呂市は岐阜県のほぼ中央に位置している。江戸時代の蘭学者林羅山が、有馬、草津と並ぶ天下の三名泉と表した下呂温泉を始め、通年温泉としては日本一標高の高い濁河温泉など、豊富な温泉と豊かな自然に恵まれている。また、地域の人々が大切にしている習慣や食文化を守りながら、農林業と観光が結び付いた国際観光都市の創造、市の将来像である「ふるさと感じる森と清流、人と町が響き合う健康と交流のまち、下呂市」を目指している。</p> <p>今回の視察は、令和 2 年に改正された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の趣旨に従い、地方公共団体が交通事業者と連携して、地域の輸送資源を総動員し、持続可能な公共交通を実現するための取り組み「下呂市地域公共交通計画」を策定している。</p> <p>計画区域は、下呂市全域とし、高齢化率 40% を超え、外国人住人 831 人の多文化共生社会が広がっており、実証期間は 2025 年から 5 年間、既存の公共交通サービスを最大限活用し、福祉タクシーや福祉有償運送、ボランティア運送、スクールバス、ライドシェアなど地域における移動手段を活用しハイブリッドな交通体制系を目指している。また、将来のリニア中央新幹線と濃飛横断自動車道という高速交通網整備が進んでいる。人口減少や人手不足も踏まえ、自動運転による地域交通の実証実験を行い、国と連携して未来技術を推進していくとのことである。</p> <p>宿泊客は、年間 100 万人程度で推移しており、宿泊客の 57% が自家用車、JR 24%、観光バス 8%、その他 6% (R5) となっているが、交通網整備により、将来大きく流れが変化していくものと思われる。</p> <p>公共交通の運行状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 路線バス・・・利用者減少により維持が厳しい。 2, コミュニティバス・・・地域住民の足として利用、小中学生の通学にも利用 3, デマンドバス・・・自宅近くから通院や買い物直行している。 4, タクシー・・・1 業者が運営 <p>福祉的な移動手段</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 福祉パスポート・・・65 歳以上の高齢者、障がい者、生活保護受給者利用 年間 11,000 円 			

- 2, 福祉乗り合い型カービス (まめなカー) ・ ・ 介護保険認定者、障がい者手帳所有、心身障がい、包括支援センターが認めた者。距離に応じて決まる。会社が独自に
- 3, 免許返納者割引タクシー ・ ・ 65歳以上で、公安委員会が発行する証明書提示1割引き
- 4, 福祉有償運送 ・ ・ 要介護者、障がい者等公共交通機関利用困難な方の通院、通所、レジャー等の移動支援
- 5, ボランティアバス ・ ・ 貸出月2回買い物ツアーやサロン送迎、ボランティアの運転

市民の皆様は、真摯に向き合い交通弱者を無くす努力が感じられます。高齢化や人口減少による人材不足は深刻ですが、外国住民が831名とずいぶん多いと感じました。今後も外国人の移住が増えていくことを感じた。

自動運転実証運行

2025年10月18日から11月1日まで出発から到着まで15分間の運行距離において自動運転の実証運行。将来の自動運転レベル4 (完全自動運転) を目指すが、今回は、カメラやセンサー等の自動運転システムを用い、必要に応じて乗務員が操作を行うレベル2 (一部自動化) での運行していた。これからの人口減少での働き手不足問題に大きく貢献するものと思った。

下呂駅に降りたとき、整備されていない駅にちょっと驚きましたが、飛騨川の橋の上から眺めると温泉街が広がり、山並みと森が広がり美しい光景でした。また、視察研修後、町を歩くと平日にも関わらず多くの観光客でにぎわっていた。昼食は、温泉街で鳥とキャベツを自分で炒めて「鳥ちゃん」下呂グルメを食べました。

下呂市の地域公共交通問題について視察をしてきました。少子高齢化が進む中で、交通問題は、本市にとっても大きな問題です。市民の移動手段として循環バスが北地区と南地区を運行していますが、搭乗者が少ないといわれます。デマンドバスについても公共交通バス500m問題を含め、しっかり交通弱者の足としての交通手段として考えなければなりません。今後、中学校の統合、小学校の統合、病院の建設を含め今後の交通事情を鑑みながら慎重に検討が必要になると思います。

様式第 2 号

視察研修先	岐阜県土岐市	氏名	阿部清
視察研修項目	土岐市地域資源活用推進計画について		
<p>所感・所見</p> <p>土岐市は、市域の 7 割が丘陵地で、自然豊かな環境と温和な気候のまちである。また、日本三大陶器の一つで、生産量日本一を誇る美濃焼のまちとしてしられる。東濃地区は良質な陶磁器用粘土が豊富で、飛鳥時代に焼かれた須恵器に始まり、約 1 4 0 0 年の歴史を持つ焼き物のまちである。</p> <p>年間に何百万人も訪れる大型商業施設が点在しているが、市内各地に人が流れていない。訪れる人々に土岐市の魅力を伝え、交流人口につなげ、地域の魅力を磨き上げ移住、定住につなげていくことを求められている。</p> <p>その課題に向けての地域資源の活用の実践が必要であり、人口減少と超高齢化社会を見据え、転出を抑え転入を増やす地域づくりを目指している。</p> <p>土岐市には、1 4 0 0 年の伝統産業である美濃焼をはじめ、自然・歴史・文化などを活かした観光資源が多く存在しており、これらの資源をさらに磨き上げ、もう少し広い視点で見つめ直し、その魅力を伝えていくことで移住、定住に繋がると考え、将来の街のイメージ「賑わいや活力のある地域」の実現を目指している。</p> <p>市民ワークショップを開催、土岐市の魅力・こうなったらいいな・とっておきの事業などの意見を聞いて、市民が自ら関わり実施したい事業について意見を聞き検証し、将来的なまちのイメージや・活力のある地域の祭りなどの魅力発信により、市内、市外の人にも魅力が伝わる世代を超えたまちづくりを目指している。</p> <p>日本中で人口減少と高齢化が進んでいるなか、子どもや若者が住みたい町には、隣の町の人も、外国の人も訪れたい町になると思うと感じた。</p> <p>本市においても、第 7 次寒河江市振興計画基本計画があり、達成に向けて努力をしておりますが、今回の視察研修を踏まえ、地域の賑わいや活力ある地域の実現に向けて、地域のさくらんぼ、つや姫、はえぬき等の地域資源や寒河江市の資源の活用を促し、寒河江市の活力のあるまちづくりを目指して努力に努めたいと思います。</p>			